

## 「外国籍の児童生徒向け日本語教育/学習支援体制づくり」

### ■ 背景

(数値は、入管庁、文科省、厚労省、日本学術会議の公表数字を引用)

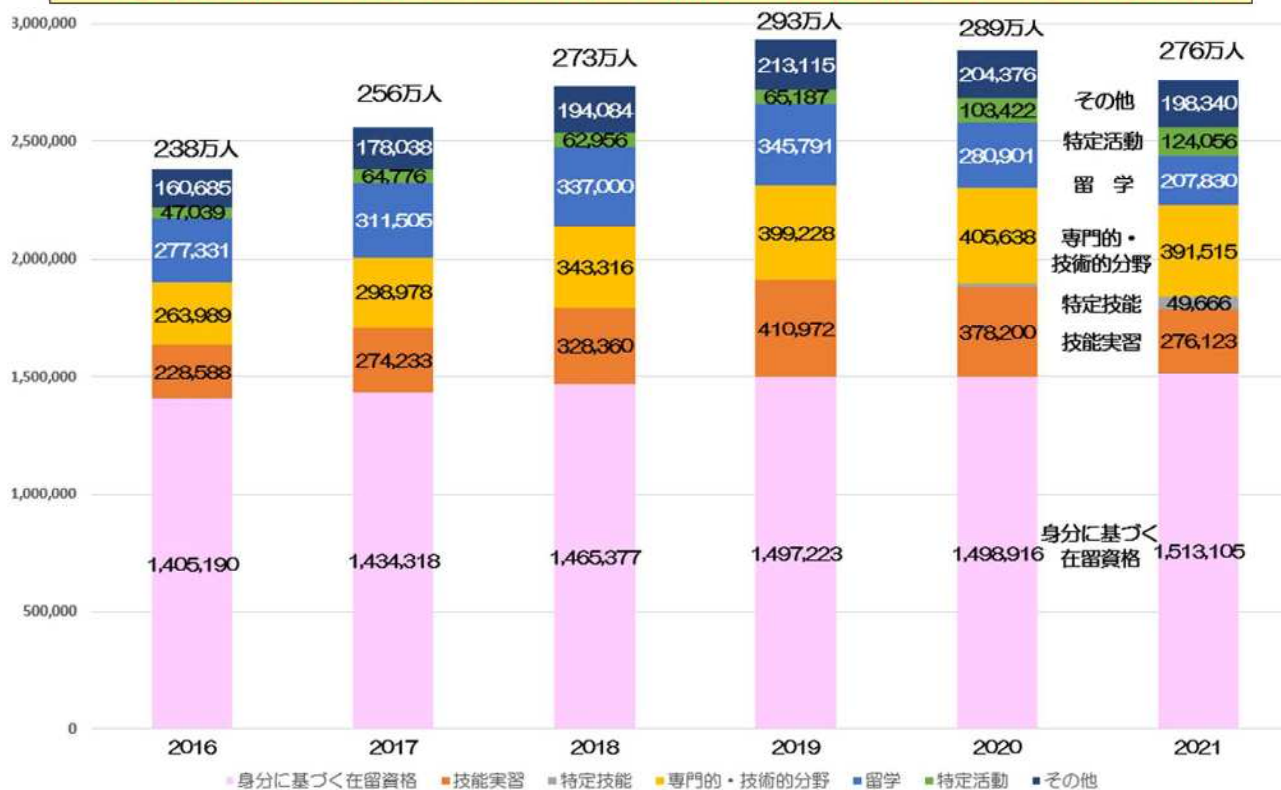
- 日本の在留外国人数は、2021 年末で約 276 万人。22 年 6 月時点では約 **296 万人**、10 月時点の労働者数は約 **182 万人**であり、ともに過去最高値を記録。
- 中でも、在留外国人の5割以上を占め、将来、日本の住民、市民になっていく**定住者**の数は**コロナ禍においても一貫して増加**しており、2019 年に施行された改正入管法により、今後、**配偶者や子どもを含む外国人の定住が一段と進む**ことが予想される。
- 定住者のうち、18 歳未満の子ども人口は 30 万人程度と推定され、義務教育学齢の**児童生徒数は約 13 万人**である。多岐にわたる多文化共生施策のなかでも、こうした子どもたちが将来生き生きと活躍できる教育環境の整備が重要な課題である。
- 外国籍の子どもたちを取り巻く教育環境は厳しく、**高校進学率は約 6 割**、小・中学校への**不就学**又はその可能性が高い**児童生徒数は約 1 万人**に上る。
- 外国籍の子どもたちの就学・進学を阻む大きな要因として、**日本語能力の習熟度**があげられる。**日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒数は全国で約 4.8 万人**、直近約 10 年間でほぼ倍増している。
- 多くの子どもたちは、学校以外の日本語教育も必要としており、**地域の日本語教室**がその機会提供を担っているが、大半は**ボランティア**によって運営されている。
- 外国人在留者数・労働者数ともに全国の約 2 割を占め、**定住者の比率が高い中部圏**において、**日本語指導が必要な児童生徒数は全国の約 4 割である約 2 万人**に上るが、学習機会の提供は不足しており、やはりボランティアを中心とした地域の日本語教室が担っている。

### <外国人の在留資格>

在留資格	対象者	在留根拠	就労	人数(万人) 2021年12月	
				全国	中部5県 (全国比)
① 身分に基づく在留資格	永住者、定住者等 (日系人及び家族等)	血統主義、 エスニック帰還移民	○ 無制限	151.3	33.8 (22%)
② 技能実習	技能実習生	技術移転による国際協力	○ ⑥特定活動の資格で就労 資格に定められた範囲	27.6	6.0 (22%)
③ 特定技能	特定技能1号・2号等	労働力の補填	○ 在留資格に定められた範囲	5.0	1.0 (19%)
④ 就労を目的とした在留資格 (専門的・技術的分野)	技術・人文・国際業務等の 11分野	多様性を通じた革新、 成長エンジン	○ 在留資格に定められた範囲	39.2	4.3 (11%)
⑤ 留学	外国人留学生	国際協力、多様性 ④の予備群	△ 資格外活動(時間制限付き)	20.8	1.6 (7%)
⑥ 特定活動	介護/看護人材、建設 在留延長措置対象者等	特別在留許可	○ 特定活動の範囲	12.4	2.1 (17%)
⑦ その他	家族滞在、芸術、宗教、報道 文化活動、興行、研修等	—	△ —	19.8	2.3 (11%)
合計				276.1	50.9 (18%)

<在留資格別 外国人数 推移（全国）>

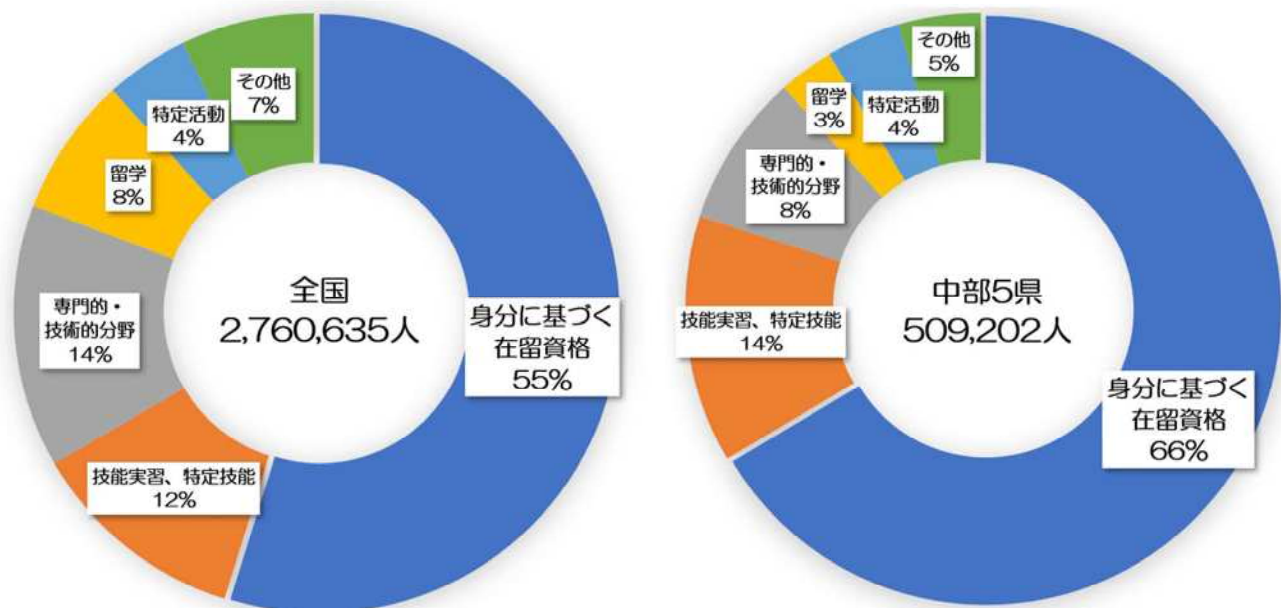
「身分に基づく在留資格」は、コロナ禍においても一貫して増加



<在留外国人数 在留資格別内訳>

全国／中部5県（2021年末）

中部5県は「身分に基づく在留資格者」の比率が高い  
（関東7県：52%、関西6県：62%）



## <日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数 推移>

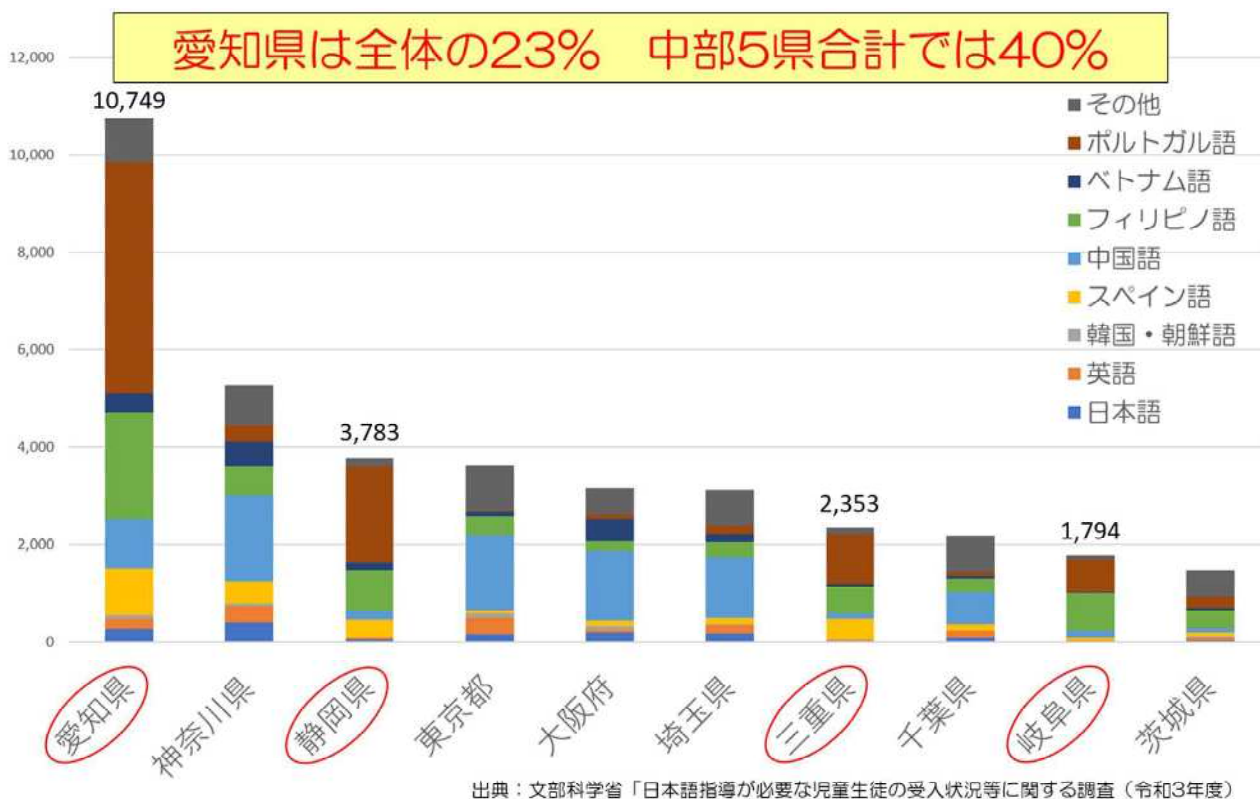
(公立 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校)

**日本語指導が必要な児童生徒は11年間で1.7倍増**



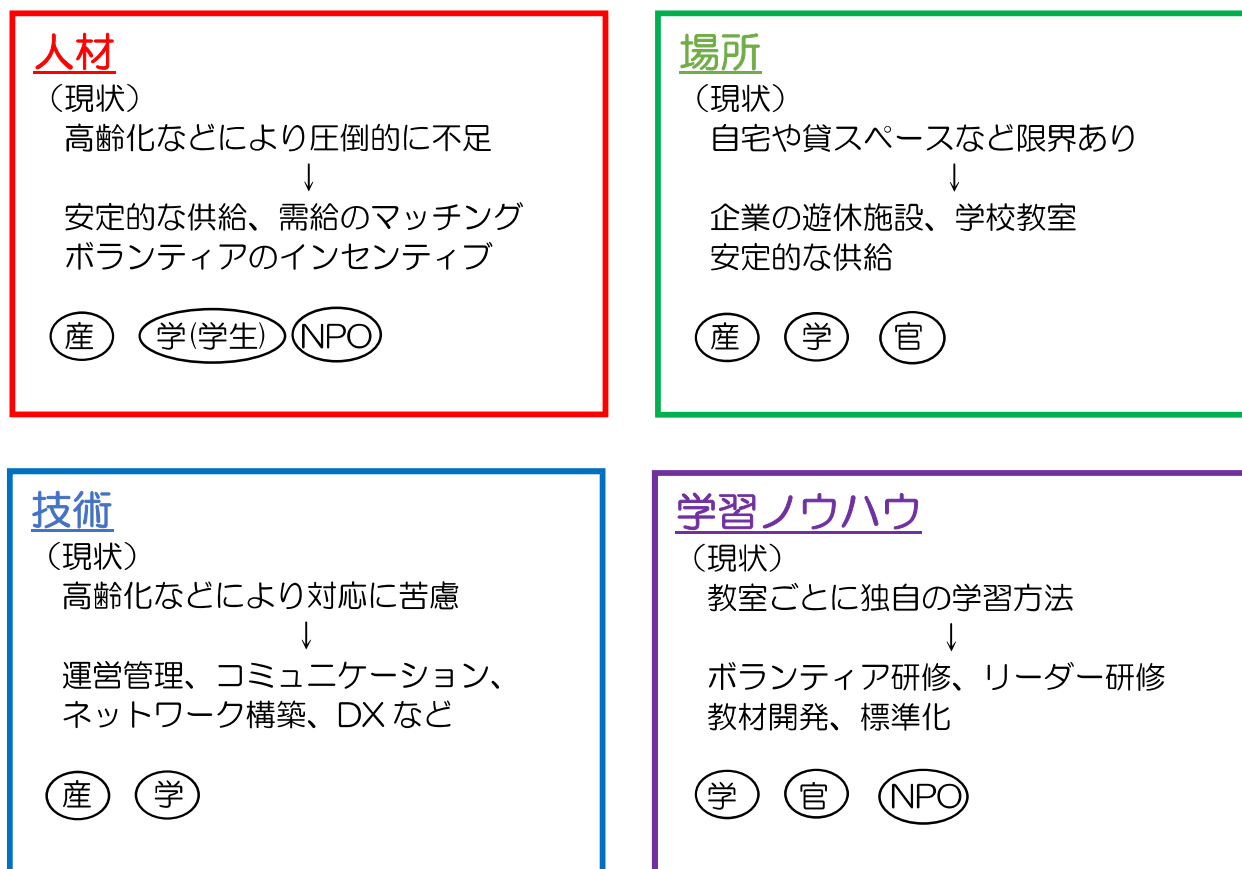
## <日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数の多い都道府県>

上位10都府県（母国言語別 公立学校在籍数）



## ■ 「産学官連携による地域日本語教室支援活動」

### <支援に必要な要素>



### <愛知県・愛知県国際交流協会・愛知県経営者協会・中部経済連合会の連携事業> (2022/10月、2023年1月プレスリリース)

- 外国人労働者の家族、特に将来を担う**子供の日本語教育を支援**
- 愛知県が造成中の日本語学習支援基金の助成に加え、**企業の従業員が日本語教室でボランティアとして活躍**できる仕組みの構築
- 激化が予想される**国際的な外国人材獲得競争の中で**、多文化共生を推進し、「**選ばれる地域・企業**」の実現に寄与する
- ESG や SDGs の観点から、**社会貢献事業としての産業界への呼びかけ** →人材支援 (含むプロボノ)、会場提供など
- 2022年11月より、賛同会員企業による**パイロット事業**開始

## ■（参考事例）日本ガイシ殿の取組み紹介

### 在住外国人児童向けの日本語教室を支援 就学・進学に必要な日本語を学ぶ場と機会を提供

- 2022年4月1日にスタート。
- 愛知県小牧市を活動拠点とする任意団体「一色コスモスサポート学習の会」と連携し、同市に住む外国人児童の日本語学習支援を行う。
- 小牧市内の社員寮内の一室を日本語教室「一色コスモス二重堀教室」として提供し、同社従業員が海外赴任経験やこれまでに培った知識・スキルを生かし、業務として講師アシスタントをつとめる。
- 市内在住の外国人小中学生に日本語で学習指導を行い、教科学習に必要な学習言語能力の向上を支援。
- 小牧市は、県下でも外国籍の子どもが特に多い自治体の1つであり、グループ会社のNGKセラミックデバイス株式会社でも約300人の外国人が働いていることなどから、社会貢献活動の一環として支援を開始。



#### <一色コスモス二重堀教室の概要>

内容	日本語による学習指導（漢字、九九など）
時間	毎週水曜・金曜 17:00～19:30（2.5h）
場所	<b>小牧寮2階 大会議室</b>
対象者、人数	小中学生 19名
支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一色コスモス講師 2～4名</li> <li>• <b>講師アシスタント（日本ガイシ）6名</b></li> </ul> ⇒ 計 <b>4～8名</b> ／日 体制
アシスタントの扱い	<b>勤務時間内 業務として取り扱う</b>
アシスタント公募	<b>職群の制限なし→現在9名の応募あり</b>

